

街なか再生事業をウェブサイトがサポート

(株) おおず街なか再生館

機関名	株式会社おおず街なか再生館			
所在地	愛媛県大洲市大洲649-1			
電話番号	0893-24-7060			
地域概要	(1)管内人口	3万9千人	(2)管内商店街数	- 商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	16商店街	(2)会員数	11商店
	(3)空店舗率	4.6%	(4)大型店空き店舗数	0店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 活性化対策事業

商店街等IT基盤整備事業の実施

- ・商店街等地域情報一元化システムの構築（商店街・個店情報データベースの構築、商店街マップの作成等）
- ・商店街内等でのサテライトPCの設置
- ・IT講習会、IT化に対する意識啓発のためのイベントを開催

総事業費

6,600千円

【事業実施内容】

1. 背景

大洲市の商店街は、街の中央を流れる肱川を境に大洲城下町の風情を残す肱南（こうなん）地区と、JR大洲駅を中心とした商業地・肱北（こうほく）地区のバランスで、大洲周辺地域の人々が集う活気のある商店街として栄えてきた。

しかしながら、モータリゼーションの発展にともなう車社会への対応の遅れや、大型店舗の進出、地方拠点都市の指定を受けての東大洲地域への商業立地の移動など、商店街を取り巻く経営環境は急速に悪化してきた。

一方、消費者サイドのインターネッ



大洲市の位置

㈱おおず街なか再生館

トの活用が進展していることなどから、IT（特にインターネット）を活用して、商店街としてどのような特色を打ち出せるかが重要な課題となってきている。また、高齢者・障害者への配慮という点でも、ITはインフラとして力を存分に発揮できる可能性を有している。

このような状況を受けて商店街活性化に向けた足がかりとして、IT事業に取り組むこととなった。

2. 事業内容

(1) 「ウェブステーション～あさもやドットコム」の開設

街の地域情報・雰囲気を全国に発信していくために、データベースの構築を行い、サイトを開設した。平成14年10月作業を開始し、平成15年3月末に完成、4月より試験運用を開始した。管理運営は、TMO㈱おおず街なか再生館が行っている。

1) サイト開設の目的

平成10年にTMOを設立した当初から、IT基盤整備事業に取り組んでいくことを視野に入れていた。ただし、IT基盤整備事業はあくまでもTMOのメインの事業をサポートしていくためのものと位置づけており、「生きた情報の受発信」が効果的に行える環境を整えるためのツールとして活用していくことを第一の目的としている。

2) コンテンツ

大洲市の地域情報を集約したコンテンツ構成になっている。

- ・大洲市商工観光課ホームページ
- ・大洲まちの駅あさもや情報
- ・TMOの街づくり活動情報
- ・大洲商工会議所ホームページ
- ・その他、地域密着情報等

3) 対象

コンテンツの構成からも分かるとおり、特に対象の絞込みは行っていない。

TMO㈱大洲街なか再生館では「大洲まちの駅あさもや」を運営しており、この施設が大洲市を訪れる観光客のスタート&ゴールの役割を担うと同時に、街なか再活性化の基幹施設として機能している。このことから、ターゲットは大洲市を訪れる観光客・地域住民など幅広く、あえて言うならば「全国の皆様」ということになるとの認識である。

4) 今後の展開

継続的にIT整備事業に取り組んでいき、将来的には市町村合併を見越した上での「地域密着型情報受発信サイト」を構築することを目ざしている。

具体的には、行政主催の催事やイベントなどのお知らせをダイレクトメールで案内したり、地域における様々な出来事をインターネットニュースとしてサイトに掲載したり、地域住民の生活に関連した情報の発信を行うといった「ローカルネットメディア」の役割を



あさもやドットコムのトップページ

果たすことを目指している。

一方で、インターネットの環境整備のみが先行していくということは余り好ましい状況ではなく、行政や商店街とのコミュニケーションを取ることで実社会においてTMOの役割を果たしていくことが重要であるとの認識を有している。



まちの駅あさもやナビゲーション



浪漫観光ナビ

【効果】

IT基盤整備に関する事業に関しては、開始後短期間で効果が現れるということはありませんので、第一段階として3年間は継続していく必要があると考えている。

TMOの認知度を高めることを通して事業の認知度を高め、来街者がそれまでとは違った行動をとっていくことで、近隣商店街への波及効果が現れると理解している。

【課題・反省点】

現状では、大洲市の街なか再生事業はTMOが事業展開におけるプロデューサーとなり、大洲市商工観光課・大洲商工会議所の専門担当者のサポートを得ながら進めている。

基本となる事業費はTMO自らが稼ぎ、様々な事業メニューに照らし合わせて、関係機関に支援を仰いでいる。

しかし、街なか再生で最も重要なことは自らが汗を流して取り組んでいく姿勢であるとの認識で、今後は事業費をいかに自ら稼ぎ出していくかが課題となっていくと考えられる。

【教訓】

事業を成功に導くためには、まず、ソフト面を充実させることが重要であり、次いで実施しようとするものの「話題性」がどれくらいあるのかという見極めを行うことが重要である。

情報化時代において情報を効果的に伝えられるか否かは、「話題性」の大きさにかかっている。

㈱おおず街なか再生館

そして、街に多くの人々が集まってくるか否かは「話題性」が大きな要素となってくる。

街なかの活性化を「ハード事業」を第一に行っていくのではなく、街なかに少しずつ、ピンポイント的に「話題の種」をまいていくという地道な取り組みを行っていくことが必要である。そしてこの取り組みを通して、商店街の人々の認識を新たにしていく過程を経た上で「ハード事業」を行っていくべきである。

その前提として、街の来街者情報や観光客情報などを、自らの手で徹底的に分析することが、街づくり及びTMOの経営基盤確立への重要な第一歩となると考えている。

【 関 連 U R L 】

大洲まちなか再生館 <http://www.shikoku.ne.jp/tmo-oozu/%00>

あさもやドットコム <http://www.asamoya.com>

大洲商工会議所 <http://www.shikoku.ne.jp/oozu-cci>